



I 第31週の発生動向 (2026/7/27~2026/8/2)

- 手足口病について、西北保健所管内の定点当たり報告数が新たに**警報レベル**となり、東津軽+青森市保健所管内、中津保健所管内、三戸+八戸市保健所管内及び上北保健所管内で**警報**が継続しています。特に乳幼児が集団生活をしている施設等では、流水・石けんによる手洗いを徹底し、タオルの共用を避け、排泄物等を適切に処理するなど感染予防に努めましょう。
- 突発性発しんやヘルパンギーナの報告数も増加しています。手足口病と同様に感染を予防しましょう。
- インフルエンザについて、西北保健所管内の**注意報**が**解除**となりました。引き続き、日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「手足口病が流行しています!」です。

最終ページに掲載しています。

II 第31週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

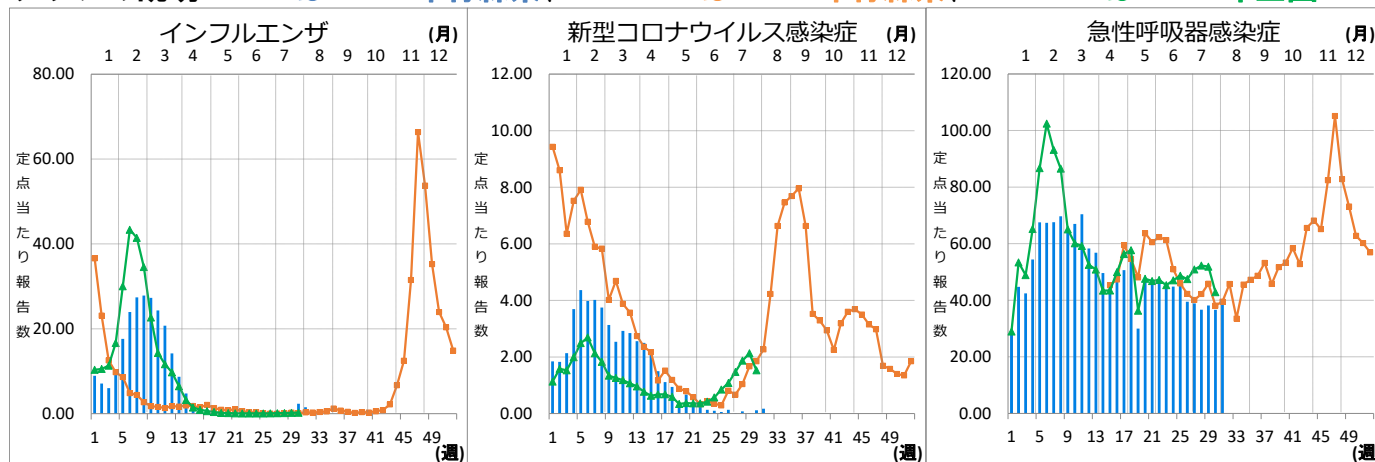
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報、「空欄」: 患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中津 (中津保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	13	1.18	26	2.60	2	0.20	21	3.50	16	1.78	1	0.17	79	1.52	-43
	新型コロナウイルス感染症	2	0.18	1	0.10	2	0.20	1	0.17	2	0.22	1	0.17	9	0.17	3
	急性呼吸器感染症	597	54.27	316	31.60	282	28.20	200	33.33	351	39.00	321	53.50	2067	39.75	163
小児科	RSウイルス感染症	1	0.17											1	0.03	-1
	咽頭結膜熱	1	0.17	1	0.17	3	0.43							5	0.15	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	0.33	1	0.17	2	0.29	4	0.80			3	0.75	12	0.35	-10
	感染性胃腸炎	8	1.33	6	1.00	25	3.57	2	0.40					41	1.21	10
	水痘					1	0.14					3	0.75	4	0.12	-4
	手足口病	53	8.83	76	12.67	76	10.86	51	10.20	63	10.50	8	2.00	327	9.62	81
	伝染性紅斑															0
	突発性発しん	2	0.33	1	0.17	12	1.71	4	0.80					19	0.56	13
	ヘルパンギーナ	18	3.00	8	1.33			23	4.60	11	1.83	3	0.75	63	1.85	24
	流行性耳下腺炎	1	0.17							1	0.17	1	0.25	3	0.09	3
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎											1	1.00	1	0.17	-1
	無菌性髄膜炎					1	1.00							1	0.17	1

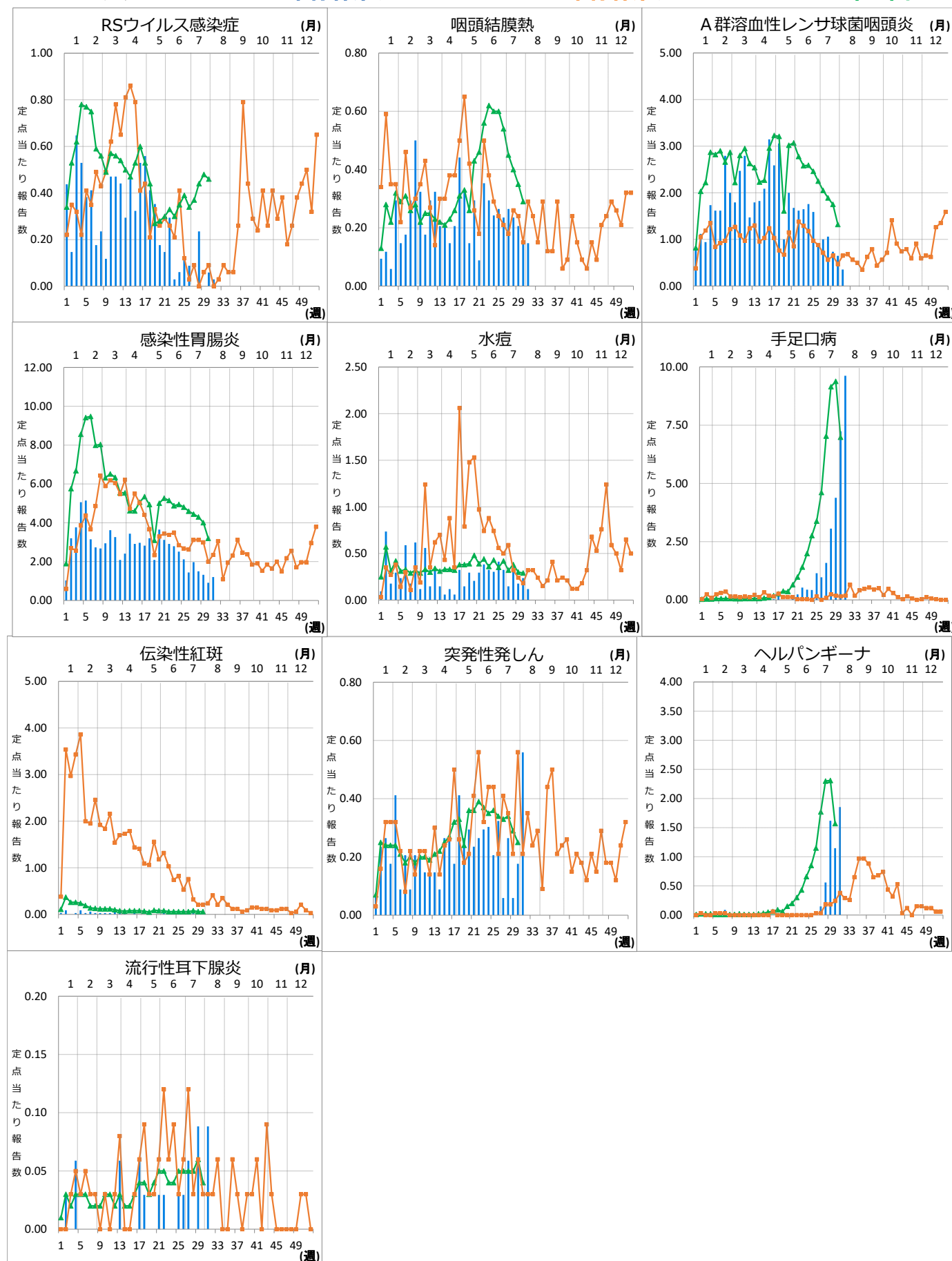
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第31週、ただし全国は前週)

グラフの説明 は 2026年青森県、 は 2025年青森県、 は 2026年全国

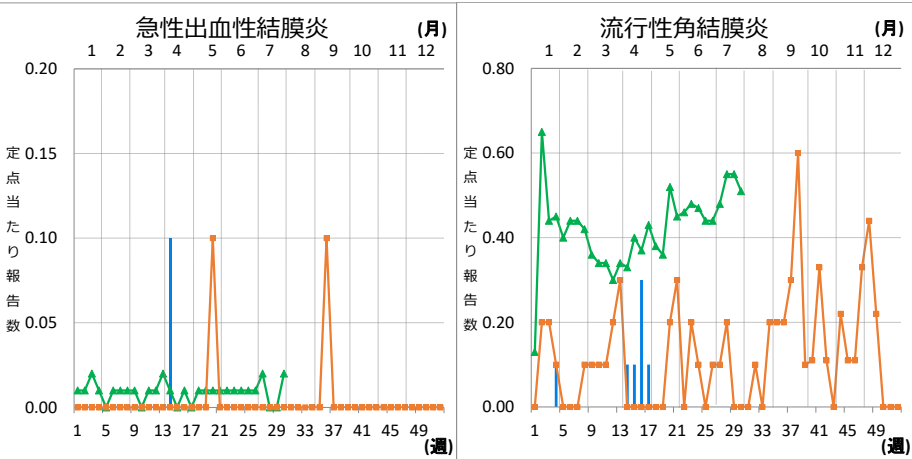


Ⅳ 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026 年第 31 週、ただし全国は前週）

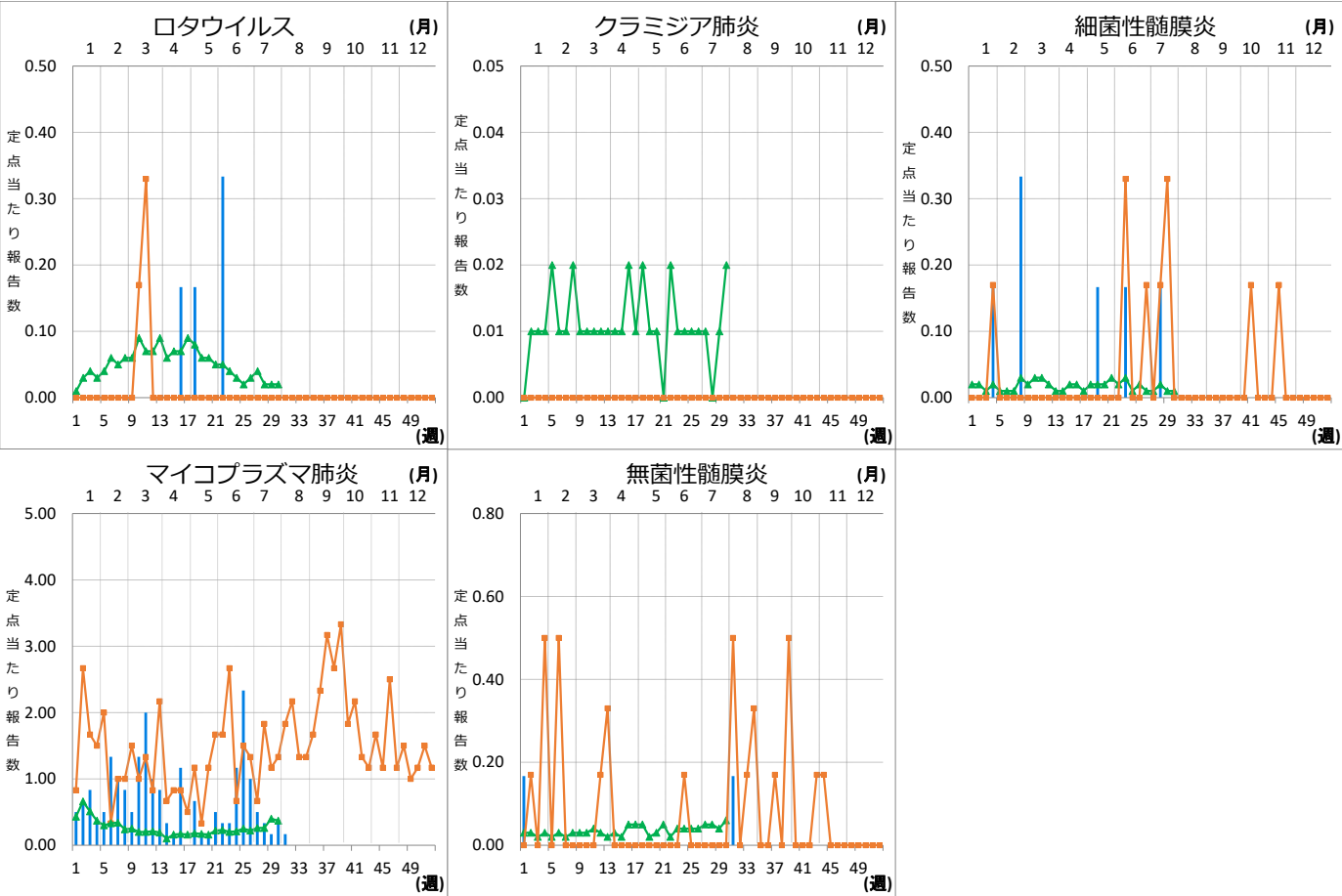
グラフの説明  は 2026 年青森県、 は 2025 年青森県、 は 2026 年全国



V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026 年第 31 週、ただし全国は前週）
 グラフの説明👉**——は 2026 年青森県、■——■は 2025 年青森県、▲——▲は 2026 年全国**



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026 年第 31 週、ただし全国は前週）
 グラフの説明👉**——は 2026 年青森県、■——■は 2025 年青森県、▲——▲は 2026 年全国**



Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026 年第 24 週～31 週)

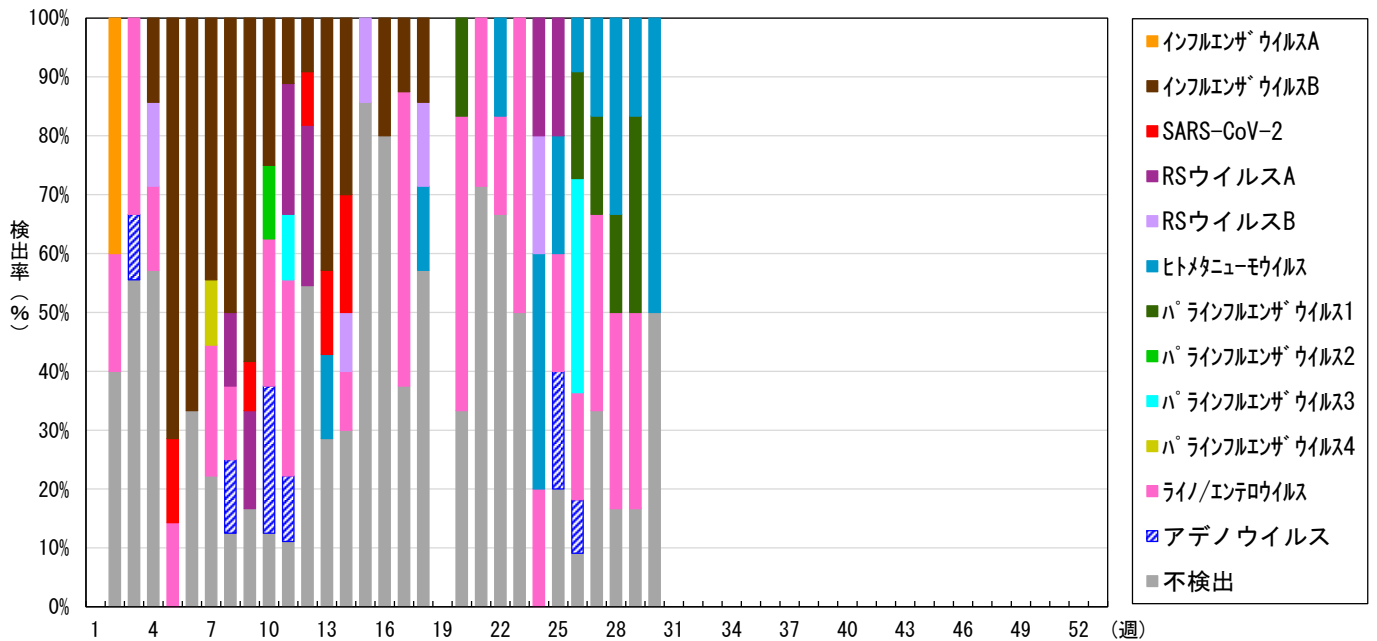
急性呼吸器感染症	2026年							
	24週	25週	26週	27週	28週	29週	30週	31週
提出検体数	5	5	8	6	5	5	6	7
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスA	1	1	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	1	0	0	0	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	2	1	1	1	2	1	3	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	2	1	1	2	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	0	4	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	1	1	2	2	2	2	0	
アデノウイルス	0	1	1	0	0	0	0	
不検出	0	1	1	2	1	1	3	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	7

※第26週に提出された検体のうち、パラインフルエンザウイルス3及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが2検体、パラインフルエンザウイルス3及びヒトメタニューモウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第28週に提出された検体のうち、ヒトメタニューモウイルス及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第29週に提出された検体のうち、ヒトメタニューモウイルス及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026 年第 1 週～30 週)



VIII 全数把握対象疾患発生状況（第 31 週）

- ・結核（二類感染症）：青森市 1 人、下北 1 人（2026 年計： 61 人）
- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：青森市 1 人、中南 1 人、上北 1 人（2026 年計： 20 人）

IX 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026 年第 28 週～2026 年第 31 週）

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
28		結核1人 百日咳2人	結核1人 水痘（入院例）1人	結核1人	つつが虫病1人	
29	結核2人 梅毒1人	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人	結核1人			
30	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人	レジオネラ症1人 カルバペネム耐性腸 内細菌目細菌感染症 1人 百日咳1人	百日咳2人		腸管出血性大腸菌感 染症1人	
31	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人	腸管出血性大腸菌感 染症1人			腸管出血性大腸菌感 染症1人	結核1人

第 30 週に中南保健所管内でカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の届出が 1 件ありましたので追記しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026 年第 1 週～第 30 週までの累計）										
分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムポックス	オウム病
累積報告数	8300	41	1805	23	11	400	185	9	92	4
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア
累積報告数	4	5	113	1	3	61	46	246	2	27
分類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症
累積報告数	2	1	1386	4	286	126	566	15	283	5
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	多剤耐性緑膿菌感染症	梅毒
累積報告数	88	769	547	24	335	37	1746	511	118	6582
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類			
疾病名	播種性クリプトкокクス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症			
累積報告数	100	55	52	3848	3	547	10			

青森県（2026 年第 1 週～第 31 週までの累計）

分類	二類	三類	三類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	61	2	20	3	3	2	1	6	2	8
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類				
疾病名	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	百日咳				
累積報告数	1	5	12	7	12	26				

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

Ⅻ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026 年第 31 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第31週	報告なし		

2026 年報告件数及び発症者数

月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月					8月	9月	10月	11月	12月	計
施設種別		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27週	28週	29週	30週	31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	2	3	0	0	0	0	0	0						15
	発症者数	37	44	69	23	42	0	0	0	0	0	0						215
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	3	4	1	0	0	0	0	0						13
	発症者数	92	0	30	73	63	10	0	0	0	0	0						268
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0						2
	発症者数	20	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0						38
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0
計(月別)	件数	7	2	8	5	7	1	0										30
	発症者数	149	44	117	96	105	10	0										521

感染症の窓

手足口病が全国的に流行しています。
全国及び県内保健所管内別の定点当たり報告数の推移は図のとおりです。全国の定点当たり報告数は、第14週から増加し始め、第27週以降、警報の開始基準値である5.0人/定点を上回る状態が続いています。

一方、県内保健所管内別の定点当たり報告数は、第20週までは比較的低い水準で推移していましたが、第21週から増加し始め、第31週には5保健所管内で警報レベルとなりました。今後さらに増加する可能性がありますので、注意が必要です。

感染経路は、飛まつ感染、接触感染、糞口感染ですので、予防には、流水・石けんによる手洗い、タオルの共用を避ける、排泄物を適切に処理するといった対策が有効です。また、手足口病が治った後も、数週間にもわたり便にウイルスが排泄され、また、感染しても発病しないままウイルスが排泄されている場合もあると考えられるため、日頃からおむつを交換した後は、排泄物を適切に処理し、流水と石けんで十分に手洗いをするよう注意してください。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

 [手足口病\(厚生労働省 HP\)](#)

手足口病が流行しています！

